



7月2日(火)～5日(金)

森林保全の大切さを学ぶ 中学生が丸山生産森林組合で林業職場体験

岸 本中学校、溝口中学校の2年生4人が7月2日(火)から4日間、丸山

生産森林組合で職場体験学習を行いました。この職場体験学習とは、体験活動を通して自己理解を深め、自分の適性を考えながら進路選択に役立てること等を目的に、毎年受入れ可能な町内各事業所で一斉に行われているものです。

比較的過程しやすい天候の中、炭作り、薪割り、下草刈り、枝打ちなどを通して、森林保全の大切さを学びました。

参加した生徒は、「林業は木を育てることだけではなく、防災にも繋がりが、私たちの生活を安全にしてくれることが分かった」「木をしっかりと育てるためには、つた切りや枝打ちが必要だと学んだ」「いろいろな機械を使うので、とても気を使わないといけない」と話していました。また、優しく丁寧に指導していただいた方々に感謝していました。

この体験活動の費用の一部は、森林を県民みんなで守り育てるための「森林環境保全税」が活用されました。



▲中学生と森林組合の皆さん



▲真剣に取り組みます



▲飲食物の提供の様子

全 日本トライアスロン皆生大会が7月14日(日)に開催され、植田正治写真美術館前に設置されたエイドステーションでは、多くのポランテアが参加し、選手たちの力走を支えました。当日は、ポランテアが選手に飲み物やフルーツなどを提供し、「お疲れ様」「頑張ってる」など温かい声をかけたり、冷たい水を浸み込ませたスポンジで選手の頭や首を冷やしたりするなど、選手たちの体を気遣いながら、選手の力走を支えていました。



▲冷たい飲み物を提供します



▲あたりを待つ出場者たち



▲鮎を社会福祉協議会に寄付しました

日 野川漁業協同組合岸本支部が主催する、鮎釣り大会が7月28日(日)、伯耆町役場本庁舎裏の日野川を会場に開催され、町内外から集まった釣り人52人が、自慢の腕を競いました。当日は時折強い日差しが降り注ぐ中、参加者は上流から下流まで思い思いの場所に散らばり、竿先に神経を集中させ、鮎が食いつく瞬間をじっと待ちました。大会で釣った鮎は伯耆町社会福祉協議会に寄付され、デイサービスなどで提供する食料の材料として、活用されました。

7月28日(日) 日野川に腕自慢集結 第26回きしもと鮎釣り大会